

台風15号・19号被害 復旧・復興に向けて

台風15号・19号およびその後の記録的な大雨は、各地に甚大な被害をもたらしました。被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興に向けて、コープデリグループでは被災地や被災産地の支援に取り組んでいます。

全国の生協が 災害ボランティアセンター の運営などを支援

10月12日に上陸した台風19号。長野市内では13日に千曲川の堤防が決壊し、その支流の河川も各地で氾濫、市内北部を中心に、推定で4千戸以上が床上・床下浸水しました。

土砂が流入した住宅から泥をかき出し、家屋の片付けや災害ごみの運搬などを行うため、16日から災害ボランティアの募集が始まりました。

全国からボランティアに来る方を受け付け、被災された方の要望を集めて作業を割り振るのが、長野市社会福祉協議会（社協）が開設した「災害ボランティアセンター」。そのセンターの運営などを支援するため、コープデリグループを含む全国の生協から、合計50人の職員が現地に入りました。

ボランティアが スムーズに作業できる ようサポート

センターでは、ボランティアの受け付け後、初参加の方には注意事項や作業の流れを説明します。被災された方の状況と、ボランティアの方のできることを確認し、活動先を振り分けます。センターから遠方の災害現場へはバスで送迎。ボランティアがスムーズに作業に入れるようサポートしています。

コープデリ連合会からは、10月25日から29日まで安全推進・法務部の常山幸生さんが、29日から11月2日までCSR推進部の安光晴さんが参加しました。「センターの運営には、社協はもちろん、大阪や熊本など全国の生協、NPOなどさまざまな団体に参加しています。私たちは主に受け付け作業を担い、他団体と連携しながらセンター

を運営しました」と話す安さん。平日でも数百人のボランティアを受け入れたそうです。ボランティアには、学生から年配の方までおり、初めて参加したという方も多かったとのこと。「私ですが、ボランティアに行きたいと思っても『どうすれば参加できるの?』とわからない方は多いのではないのでしょうか。でも作業内容など細かく説明するので、行けば活動できそうです。災害が起こらないことが一番ですが、こうした災害時にはできる範囲でいいので、多くの方にボランティア活動に参加してほしいと思います」



左からコープデリ連合会
安全推進・法務部 常山幸生さん、
CSR推進部 安光晴さん



(写真上)センターから遠方の災害現場へはバスで送迎
(写真下)さまざまな団体が一緒に課題に対応するため、
会議で情報を共有

全国から来たボランティアを受け付け、
スムーズに作業に入れるようサポート



緊急募金にご協力いただき、ありがとうございました

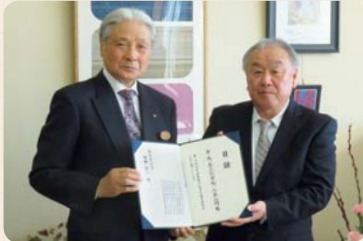
台風15号 1億7,657万9,851円

台風19号 2億2,169万8,856円

※金額は12月16日現在。コープデリグループ合計

----- お寄せいただいた募金は、被災者・被災地への支援として活用します -----

●被災者への義援金として



12月24日、「台風19号被害緊急支援募金」から5,536万7,858円を栃木県に贈呈しました。埼玉県や茨城県などへも寄付し、被災された方への義援金として届けられます

●産直産地の復旧支援金として



コープの産直産地でも、ビニールハウスや集荷場といった施設の倒壊、農作物の水没など甚大な被害が発生しました。これらの被害から復旧するための支援金として、各産地にお送りします

●被災地への物資提供として



被災地の自治体や社会福祉協議会などからの要請に応え、飲食品や生活用品、清掃用品などを緊急支援物資としてお届けしました

再起に向け立ち上がる産地を、コープは応援しています

台風により、私たちの食卓を支える多くの産直産地や工場も大きな被害を受けました。コープデリグループでは、被害を受けた産地や生産者を「食べて応援」する取り組みを進めています。たくさんの方にご利用いただくことが、産地や生産者の支援につながります。



店舗で応援セールを行ったほか、宅配の商品案内では、被災した産直産地の商品や、しばらく操業できなかった工場の商品に「食べて応援」マークを付けて、わかりやすく案内しています。

職員によるボランティアを産地に派遣しました

全国有数の農産物の生産地でもある千葉県。コープデリの産直産地も多くありますが、農業に欠かせないビニールハウスが猛烈な風によって破壊されるなど、大きな被害を受けました。曲がった骨組みは元に戻せないため、基礎から解体し、建て替える必要があります。しかし被害が広範囲に及ぶため、専門の業者もすぐに対応できません

産地からのメッセージ



産直産地の1つ、多古町旬の味産直センター
代表理事 鎌形芳文さん

出荷中のミニトマトがビニールハウスごと倒壊したり、芽が出たばかりの大根やにんじんが土ごと流されたりと、これまで経験したことのない被害でした。気持ちが落ち込み、中には農業を辞めたいという生産者もいました。しかし組合員の皆さんやボランティアの皆さんに支援していただき、頑張ろう、前を向こうと励まされています。

台風15号の直後、生育が早くすぐ出荷できるミニ大根の種をまき、12月にかけて出荷。多くの方に利用していただきました。ありがとうございました。

この先どうなるのかという心配はありますが、いただいたご恩を何倍にもして返せるよう、これからも元気な姿で商品・産地の良さを伝え、おいしく安心して食べられる農産物を作っていきますので、ぜひ食べていただきたいと思います。

ん。そこで、少しでも早く農業を再開できるように、職員でボランティアを募り、週末を中心に産地に派遣。12月までにのべ682人が、ハウスの解体や畑を整備する作業を担いました。



ハウスのパイプを基礎から撤去。参加職員から「コープと生産者のつながりを実感した。産地の力になって良かった」との声が寄せられました